

第2学年道徳学習指導案

日 時 平成21年10月9日(金) 5校時

児 童 2年 男子6名 女子5名 計11名

指導者 紀 室 浩

- 1 主題名 ころをつなぐありがとう 【2-(1) 礼儀】
- 2 資料名 ぽっかぽか (出典 みんなのどうとく 2年 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章、道徳の第1学年及び第2学年の内容の2「主として他の人とのかかわりに関すること」の(1)に「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。」とある。

人間関係が希薄になり、近所の人々とも挨拶を交わすことが少なくなってしまった現代社会において、人と人の心をつなぎ、よりよい人間関係を回復する鍵となるのが挨拶である。特に「ありがとう」は、温かい人間関係を築くための最高の言葉であると考えられる。相手に対し感謝の気持ちを持ち、それを、心を込めて表現することができる児童を育てていきたい。

(2) 児童について

本学級の目標に『『ごめん』や『ありがとう』の言える学級』がある。これは、相手を尊重してほしいという担任の願いをもとに児童と話し合い、設定したものである。この話し合いの際、児童は、担任の説明を聞き、この言葉が大切であることを表面的には理解したように見えた。帰りの会では、「今日の良かったこと」として、相手に感謝したり、相手の行為を認めたりする発言が多い。しかし、日常的な指導では、自分の非を認める「ごめん」についての指導が多くなり、「ありがとう」について深く指導する機会は多いとは言えず、「ありがとう」の言葉によって温かい気持ちになるという経験も少ないものと思われる。基本的な生活習慣は、低学年からきちんと身につけることで定着する。「ありがとう」の言葉は心の動きと大きくかかわりあってくるものなので、本時の指導とともに、日常的な指導とも関連させながら、低学年のこの時期に大切さを自覚させたい。

授業中の発表については、自分が自信を持てる内容はどの児童も意欲的に発言しようとする。自他の考えの相違点を考えながら聞こうとする姿勢も比較的できている。しかし、気持ちを想像することなど、深い理解力が必要なものには個人差がある。

(3) 資料について

本資料は、登場人物の二人が小学生であるため、児童にとって二人の思いを捉えることは比較的容易であると思う。主人公のとも君は、見知らぬおばあさんのハンカチを拾い、お礼を言われた。そこで、「ありがとう」という言葉の気持ちよさに気づいていく。おばあさんにお礼を言われた嬉しさや、友達と仲直りできた嬉しさに共感させ、挨拶の気持ちよさに気づかせたい。

(4) 他教育活動との関連

基本的な生活習慣にかかわる内容なので、児童会の挨拶運動強化週間と関連付けながら、日常の指導で活かしていきたい。また、朝の会や帰りの会で、気持ちのよいあいさつをした児童を称賛するなど、継続的に指導していく。

4 本時の指導

(1) 目標

ありがとうの言葉の温かさに気づき、進んで使おうとする心情を育てる。

(2) 本時の指導の構想について

導入段階では、『こころのノート』にある「あいさつはこころのリボン」の言葉を提示し、学習の課題とする。

展開段階では、一人で帰っているとも君の状況がわかるようにコメントを加えながら資料を範読し、仲良しの友だちとけんかしてしまったときの嫌な思いや、一人で帰るときの寂しさに共感させるようにする。おばあさんに「ありがとう」と言われたとき、嬉しく思っただけでなく、自分も使ってみようと思った点についても触れたい。なおと君と二人で笑っているときの気持ちについては、ワークシートに書かせることで、とも君の喜びにじっくりと浸らせながら共感させていきたい。また、嬉しさとともに仲良くなったきっかけが「ありがとう」など相手を大切にしている行動だったことにも気づかせていきたい。展開後段では、「ありがとう」を言われたときや言ったときの気持ちについて思い出させ、「ありがとう」という言葉の大切さや気持ちよさを感じ取らせるようにしたい。

終末段階では、導入段階で示した「あいさつはこころのリボン」の言葉を再提示し、その意味について話し合い、挨拶が人と人の心をつなぐ大切なものであることを捉えさせたい。

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問（主発問◎）	予想される反応	評価（□）、留意・支援（☆）
導入 5分	1 『こころのノート』 P32,33 を読み「あいさつはこころの リボン」の意味について考える。 ○「あいさつはこころのリボ ン」とはどういう意味でしょ う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の心と心をつなぐこと。 ・ 心を飾るということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 初めに、挨拶にはどんなものがあるのか、「こころのリボン」の意味は何か、自由に発言させる。 ☆ 言葉のイメージからのみで、簡単に考えさせる。 ☆ 「心をつなぐ」とは何のことかという課題意識を持たせ、資料の読みに向かわせる。
展開	2 資料「ぽっかぽか」を読み、とも君の気持ちを中心に話し合う。 ○なおと君とけんかをして一人で帰るとき、とも君はどんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ なおと君なんか嫌いだ。 ・ けんかをして、一人で帰るのは嫌だ。 ・ 早く仲直りしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 登場人物や状況がわかるように、コメントを加えながら範読する。 ☆ 仲良しの友だちとけんかしてしまったときの嫌な思いや、一人で帰るときの寂しさに共感させる。

<p>展開</p> <p>33分</p>	<p>○おばあさんに「ありがとう」と言われたとき、とも君はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>◎なおと君と二人で笑っているとき、とも君はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>3 自分が「ありがとう」の言葉を言われたときや言ったときの気持ちについて発表し合う。</p> <p>○「ありがとう」と言ってもらったことがありますか。どんなときですか。どんな気持ちになりましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ おばあさんに「ありがとう」と言われて嬉しい。 ・ とてもいい気持ち。 ・ 「ありがとう」をぼくも使いたいな。 ・ 仲直りできて嬉しい。 ・ 「ありがとう」を言えてよかった。 ・ 「ありがとう」っていい言葉だな ・ ～してあげて「ありがとう」を言われ、うれしかった。 ・ 友達のために、また何かしてあげたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 「ありがとう」と言われて、温かく弾むようなとも君の気持ちに共感させる。 ☆ 「ありがとう」を言われた嬉しさから、「ありがとう」を言いたいとも君の心を押さえる。 ☆ ワークシートに書かせ、個々に自分の思いをしつかりと持たせる。 ☆ 仲直りできた嬉しさや爽やかさに共感させる。 ☆ 仲直りのきっかけがなおと君の申し出と「ありがとう」の言葉であることを押さえる。 【自分に置き換えての意見交流】 ☆ 日常生活の中での児童の言葉をまとめたものも提示する。 ☆ 『こころのノート』の絵の人物の表情も注目させ、挨拶を交わすことで、自分も相手も気持ちよく暮らせるようになることに気づかせる。
<p>終末</p> <p>7分</p>	<p>4 「あいさつはこころのリボン」の意味を考える。</p> <p>○資料から学んだことを生かし、もう一度、「あいさつはこころのリボン」という言葉の意味を考えてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の心と心を結ぶものが挨拶だ。 ・ 心と心がつながることで温かい気持ちになる。 ・ いい気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 心と心が結び合ったときの心の動きを、資料「ぽっかぽか」に振り返りながら考えさせる。 □ 自分の考えをもって発表することができたか。 □ 挨拶のよさを理解し、実際に使っているかを後日、確かめ、賞賛したり、励ましたりする。

(4) 評価

「ありがとう」の言葉の温かさに気づき、進んで使おうとする心情を育てることができたか。

5 板書計画

ぽっかぽか

あつあつはじめるのしポン

『じも君』の気もち

きゆうしよくじかんに手をあらうじゅんばんで、
なおと君とけんかをしてしまう

けんかをじてひとりでおえぬじも

なおと君、きらい

ひとりはいやだな

なかなかおりたい

ハンカチをひろってあげた

おばあさんから「ありがとう」と言われた



うれしい
いい気持ち
つかいたい



なおと君「おきにあらうていらすいよ」
「とも君」ありがとう

なおと君とぶたりでわらうているじも

なかなかおりたい

「ありがとう」「を言えてよかった

「ありがとう」「はすい、気持ちいい あたかい

あつあつはじめるのしポン

入のじもとじもをむすび

・あたたかくなる ・うれしくなる ・しあわせに

6 資料分析

資料名 ぼっかぼか (出典 みんなのどうとく 2年 学研)

ねらい 挨拶の気持ちよさに気づき、進んで挨拶しようとする心情を育てる。

